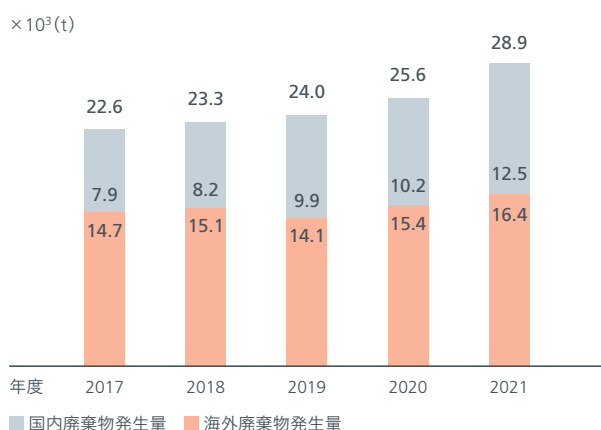


資源の有効活用と循環型社会構築への貢献

廃棄物の取り組み

2021年度における太陽誘電グループ全体の廃棄物発生量は、2020年度の25.6千tから28.9千tに増加しました。廃棄物発生量の増加は、生産数の増加などが要因となっています。有価物を含む廃棄物の内訳は、廃プラスチック類、廃油、汚泥が大部分を占めています。太陽誘電グループでは、引き続き、廃棄物発生量を削減し、廃棄物の社内リサイクル率を高めるとともに、海外拠点における再資源化を強化していきます。

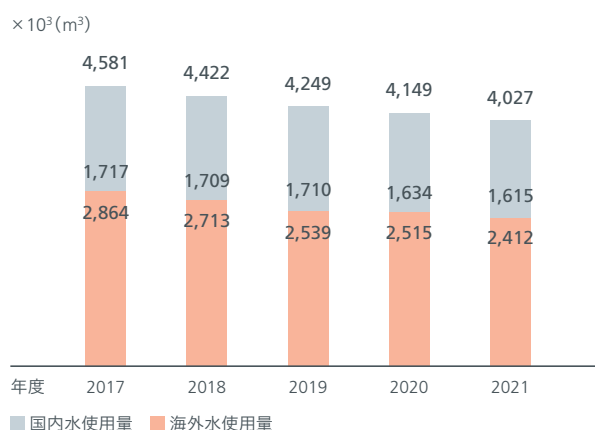
廃棄物発生量



水資源の取り組み

2021年度の太陽誘電グループ全体の水使用量は、2020年度の4,149千m³から4,027千m³に減少しました。国内拠点、海外拠点ともに使用量を減少させることができました。一方、取水量については、地方自治体の水道（または他の水道施設から）の取水が3,668千m³、淡水・地下水からの取水が359千m³となりました。水のリサイクル量は561千m³でした。

水使用量



取水量 (× 10 ³ m ³)	
地方自治体の水道 (または他の水道施設から)	3,668
淡水・地下水	359

2021年度の取り組み例

表面処理方法変更による廃棄物削減 [太陽誘電ケミカルテクノロジー]

電子部品の表面処理を行う一部の工程では生産プロセスの中で化学物質を使用しており、使い終わった化学物質は廃棄物として適切に処理しています。表面処理の工法を根本的に見直すことで化学物質を使用しない工法に変更し、化学物質の廃棄物を大幅に削減できました。

削減した廃棄物の排出量は416t/年でした。

めっき工程の節水 [TAIYO YUDEN (PHILIPPINES)]

電子部品のめっき処理する工程では様々なプロセスで水を使用しています。自動化しためっき処理の生産ラインへ供給する水は、電磁弁を使用し水の投入量を調整しています。この電磁弁の開閉時間を精査し最適化することで、水の使用量を削減できました。

削減した水は9,300t/年でした。